



な 「やうで」三同じく直立姿勢になる。

(つとく)

をかけ右足を前に出し
踵を床につける。右臂
は五指をひらいて前に
出し左臂は後に伸す。

幼稚園手技 (三)

及川ふみ

幼児の手技は、自由畫として繪を畫き、紙仕事として形を切り、或はぬりゑとして單にぬる事のみに終る單一的のものもあれば、又自由畫として畫いた繪もたゞ心の趣くまゝに畫いたさいふよりは何か一つの目的をもつてかき、それを次の仕事に役立たせる爲に畫き、それを切りさり、貼り合せて一つのものを作り上げる場合もあるのである。又一見して單純なるぬりゑの仕事の如く見えても、ぬりあげたものからは更に仕事がつゞけられて、箱になり、自動車になるさいふ様に單にぬりゑだけに終らないで目的の物を作る爲のぬりゑさいふ事もある。

幼児の手技として本來の目的とするところは、この單一的な前者よりはむしろ二つ三つの仕事の組み合わせはさつて行はれる後者の場合になる事が望ましいのである。單一的なものは要するに後に作り出される數種類組合はさつたものためにむしろ豫備的の段階でもあるのである。

これをもつて具體的に考へて見るに我々の日常の保育案の上に、自由畫、紙仕事、ぬりゑ、何々さいふ個々のものも、おもちゃ製作、動物園ごっこさいふ様に、數種のものゝ組合はさつた所謂製作なるものがあるわけである。

こんなごっこから考へて見るに、外のものよりも一層單一

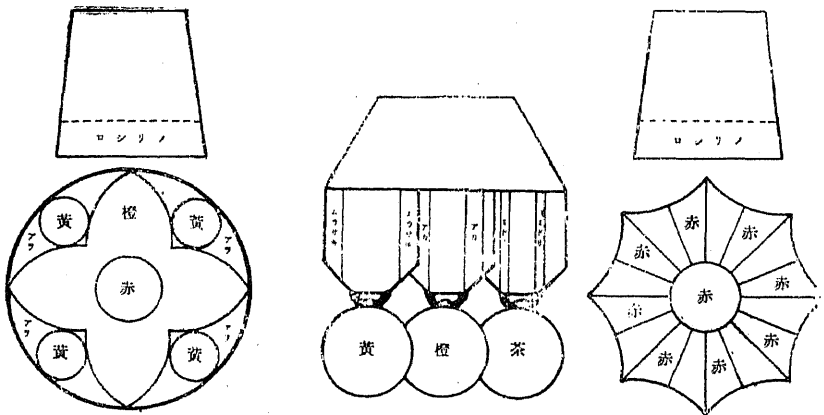
化して見えるものにぬりゑがある。

ぬりゑが幼稚園の一つの特技として一般に取り入れられる様になつてからは餘程の長年月を経過してゐる。そしてそれが幼稚園の幼児の仕事としてのみに止まらず、その材料の點では誠に遺憾な點も多い様に思はれるのであるが、さかく普通の家庭の子供たちの間にも盛に行はれてゐる様である。

尙ほこのぬりゑはぬり上つたその結果から見て、繪の手本の様な感じさへ多く與へられるところもある。この爲にぬりゑ本来の目的を全く忘れられてしまつてぬりゑの方法にも、又その繪柄の選擇の上にも見當ちがひのものが出来て、正しいぬりゑの使命の上にも甚だ迷惑を感じる事も多々あるのである。

さてぬりゑをして正しい指導の下に行はれたとしても、從來はぬりゑをぬりゑとしてごこまでもそれをそのままに終らせる事が多いのである。美しいぬり上つた繪の綴帖としてそのままに保存される事も多い様である。

けれども手技本来の目的としては、ぬりゑはぬりゑとしてだけにミヅめておくべきものではない。ここに國民學校の教育の新體制によつて綜合教育の叫ばれてゐる今日、各科學科目の綜合せられて課せられてゐる現在にあつて手技なごの一つの項目のうち、さらにさらに細かく別れ別れに



なる事は大いに考慮しなければならぬ點である。又資源愛護の立場として單にぬりゑにのみ止めておく事は誠に悪い事である。一つの製作の課程としてこれが大切な役割をはたしてほしいものである。

たゞこの時に我々が幼児以上に考慮すべき事は、單にぬりゑだけに終る時のぬ

りゑき、それから製作中の一部分の仕事としてのぬりゑきの取扱ひ方であるといふのである。

従來のぬりゑきとしての單獨の場合には保育者もその主旨をよく了解して、専念注意深くぬり上げる事であるが、後者の場合、製作中の一部分となるぬりゑきの場合には前者ほきには入念に出来ない場合が往々にしてある事を見受けるのである。これは後者が製作の途中にして、幼児自らがそのものゝ結果を急ぐ事にも一つの大きな原因があつて、ぬる事をば軽く見すごす事にもなるのであるが、その指導の任にあたる保育者としては、製作のいづれの段階も重要な役目の存するものである事に了解して指導にあたらなくてはならないのである。ここに初歩の特技の指導には敏速にするといふ事はまだのぞめない事であつて、専ら一つの工作課程に興味をもつて淳々として倦まずあせらずに仕事を繼續するといふ氣持を培ひたいものである。この點多人數の幼児を一人の保姆さんが指導する時にはなかく困難がこもなふ事でもある。

仕事の一部分としてのぬりゑきが粗末に取扱はれること云ふ事は一つにはその仕事の分量の多きに過ぎる事も一つの原因になる事である。次にぬりゑきは幼児には比較的容易に出来る仕事の一つである。この爲氣軽く早く仕事を容易につけてしまふ事である。

仕事の部分々々を入念にする事はぬりゑきの場合のみに限

らないのである。製作には二つ又は三つの仕事のつゞけて出来る事も多いのであるが、その一つ々々が當然別々の部分になつてゐてもその一つ々々に費す努力には何の變化もあるべき筈はないのである。

ここに時局柄ぬりゑきをただにそれだけの仕事に止まらず、ぬつたものは次には何かを製作するのに役立たせて使ふ、否あるものを作る爲にぬるのであるといふ事を考へてこのぬりゑきを一層活用させたいものである。

以上ぬりゑきについて愚見をのべたのであるが、製作さぬりゑきといふ事を考へて今こゝに適當なぬりゑきの材料を考へて見たいのである。

勳章

兵隊ごつこは男兒たちが、常時非常時を通じて最もよくこんでする集團遊びの一つである。肩章勳章などは手輕に幼兒自身にも、保姆にも作られるものである。たゞその輪廓の線は自由な線でなく、正確なものを與へて、その内部の色を幼兒にぬらせて作るさよい。勳章は相當の形がさよ、のほないさ勳章らしくないし、又實物は相當に細々さしてゐる。幼兒たちがぬりゑきして充分に一つの満足が得られるやうに、さらに又これを切りさつて勳章として使ふのに適當なものをさよいふので別圖の様なものを作つて見た。

別圖一センチ位のノリシロは勳章の裏へノリシロとして貼りつける部分で、残りの部分はおり返して、洋服やエプロンに縫ひつけるなりはさむなりする。(つゞく)